

QueryコマンドのSession設定によるタグ認識状況変化

QueryコマンドのSessionパラメータを変化させて、多数タグのEPCを認識した場合の状況変化を、動画でご案内致します。

Sessionパラメータは、一度応答したタグに対し、応答を抑制する程度を指示する設定となります。
(規格書: Tag flags and persistence values)

S0:電波を受けている間は抑制

S1:電波有無によらず、ある時間抑制 電波受けてる間、再度応答する場合あり
受けなくなっていても、ある時間は抑制

S2, S3:電波を受けてる間と、受けなくなっていて、ある期間抑制

多数のタグを対象にする場合、認識状況が、大きく変わる場合があります。
タグにより、振る舞いは異なります。

■機器構成

- UHF帯RFIDリーダ・ライタ UCS-200f-J2(USB)

(内部モジュール: PRM92J30CE-S)

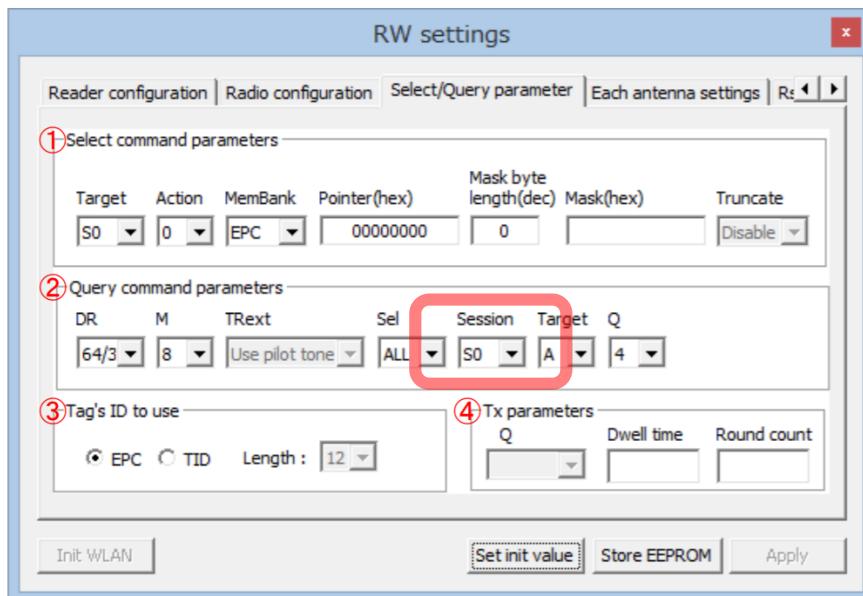
- アンテナ 5種

- 1m離して並べたタグラベル

動画資料

Session設定変更による
タグ認識状況の変化

■アプリケーション「ICタグラライタ」 RW setting [Select/Query parameter] 設定画面



■Queryコマンド EPCTM Radio-Frequency Identity Protocols Generation-2 UHF RFID Specification for RFID Air Interface Protocol for Communications at 860MHz-960MHz

	Command	DR	M	RText	Sel	Session	Target	Q	CRC
bits	4	1	2	1	2	2	1	4	5
内容	1000	0:DR=8 1:DR=64/ 3	00:1 01:2 10:4 11:8	0>No pilot tone 1:Use pilot tone	00:All 01:All 10:SL 11:SL	00:S0 01:S1 10:S2 11:S3	0:A 1:B	0-15	

お問合せフォーム

E-mail : info@artfinex.co.jp



株式会社アートファイネックス

RFID東京事業部

〒101-0047 東京都千代田区内神田1丁目7の4 晃永ビル 5F